

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	音楽表現（器楽合奏）				
担当者氏名	丸井 理恵				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門基礎-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

音楽基礎演習、音楽表現（歌唱）で習得した音楽の基礎知識を更に応用発展させる。教育・福祉の現場において健常児や障がいのある子ども達のような音楽活動を援助する際に必要な音楽的基礎技能を、鍵盤楽器、打楽器等、様々な楽器や声などを用いた実技演習を通して習得する。  
また、アンサンブル体験を通して楽器演奏能力と音楽表現力の向上を図り、実践的指導力を培う。

《授業の到達目標》

コード伴奏や伴奏のアレンジ法、移調を試み、即興伴奏や演奏が容易にできるようにする。  
ピアノアンサンブル(1台4手もしくは2台4手)発表と、受講生全員による器楽アンサンブルの発表を、自分達で企画構成して行う。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度及び到達度）・・・30%  
楽器の演奏能力・・・20%  
音楽的表現力・・・20%  
発表会での成果・・・30%

《テキスト》

松山 祐士「こどもの歌名曲アルバム」  
供田 武嘉津「学生の音楽通論」音楽之友社

《参考図書》

必要資料、楽譜、楽器等は、授業内で随時配布、または指示、紹介する。  
各自、配布プリント用ファイル及び五線ノートを用意する事。

《授業時間外学習》

音楽理論の学習は、あらかじめ予習しておく事。  
実技科目であるため、授業で学習した実技内容は次回授業までに演奏できるようにしておく事。

《備考（教員経験の有無）》

この教科は高等学校の教員経験に基づき構成しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	講義ガイダンス及び授業前アンケート。 ピアノアンサンブルのペアと曲を決める。
2	コード伴奏の基本について	音程、音階の理論を復習し、コードの成り立ちを学習する。
3	コード伴奏 C-Dur、F-Dur、G-Dur	音階の成り立ちからハ長調・ヘ長調・ト長調各調におけるコードとカデンツを学習する。
4	コード伴奏 D-Dur、 B-Dur、A-Dur、Es-dur	ニ長調・変ロ長調・イ長調・変ホ長調の各調におけるコードとカデンツを学習する。
5	コード伴奏のアレンジ	コードを様々な音型に変型させて、音型によるイメージの違いを感じる。
6	初見と即興伴奏	コードを活用して、様々な幼児歌曲に即興で伴奏を付ける。
7	簡単な幼児歌曲の移調	「とんぼのめがね」ハ長調をニ長調、変ロ長調に移調する。
8	移調譜の作成	予め移調する調を指定した幼児歌曲の中から1曲を選択し、移調譜を作成する。
9	移調の発表と楽譜提出	移調譜を作成した幼児歌曲を、原調と移調の両方で弾き歌い発表をする。発表後、楽譜（移調譜）を提出する。
10	ピアノアンサンブル 個人練習	ピアノアンサンブルの発表に向けて個人練習
11	ピアノアンサンブル ペアでの練習	ピアノアンサンブルのペアでの練習
12	合奏 選曲・楽器選択	全体合奏の選曲と楽器選び
13	合奏 個人練習及び分奏練習	全体合奏の個人楽器練習と楽器のパートごとの分奏練習
14	発表会に向けての練習	ピアノアンサンブル及び全体合奏の練習
15	発表会リハーサル	ピアノアンサンブル及び全体合奏のリハーサル